

要約

これまで養殖が困難とされていたウスメバルの養殖技術を開発し、全国で初めてのウスメバル養殖業が始まりました。

研究成果の概要

1 背景・目的

水温の低い青森県で養殖されている海産魚類は、サケマス類のみであり、新しい養殖対象魚種の開発が求められています。

そこで、天然稚魚を利用したウスメバルの養殖技術を開発し、ウスメバル養殖業創出を目指しました。

2 内容

- 天然の稚魚が流れ藻に集まる習性を利用して、効率的に稚魚を採取する方法を確立しました。
- 天然の稚魚を使った飼育で、脂質代謝異常を防ぐための適切な給餌方法や収容密度を明らかにしました。
- 飼育水槽を遮光することで、白内障予防や美しい体色につながるようになりました。
- 適切な飼育により、21gの稚魚は1年9か月で出荷サイズの180gに成長します。

3 活用等

龍飛養殖生産組合において、青函トンネルからしみだした水温と水質が安定した海水を使い生産・販売されています。



生産された龍飛岬金メバル



龍飛岬金メバルの姿造り

関連情報

- 水深の深い場所に生息する天然魚は、漁獲の際の急激な水圧変化の影響のため、活きた状態で漁獲されませんが、養殖では活漁出荷が可能で、活締め脱血のような鮮度保持技術も活用できます。
- 龍飛で養殖したウスメバルは、金色がかった体色をしているため、「龍飛岬金メバル」というブランド名で販売されています。

水産総合研究所 資源増殖部

Tel. 017-755-2155

E-mail sui_souken@aomori-itc.or.jp

AITC 青森産技 あおもりの未来
技術でサポート